

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組 1】(A中学校)

日常の委員会活動において、生徒会本部を中心に各委員会が広報や啓発、イベント開催を主体的に行うことで、生徒が得意分野で力を発揮し、認め合う場をつくることができている。



#### 【取組 2】(B中学校)

特別支援教室や別室指導、個別指導など、校内の様々な場で行われている生徒の活動や教職員の支援関連の情報を共有できるように、掲示板を職員室内に設置している。

#### 【取組 3】(C中学校)

「自ら考え、判断し、表現できる児童・生徒の育成」という研究テーマのもと、ICT活用で思考を可視化し「自己決定の場の提供」ができる授業の構築を進めている。



#### 【取組 4】(B中学校)

週1回実施の校内委員会では、個別の生徒の変化等、情報共有を行うとともに、巡回心理士からのアドバイスや巡回教員からの研修内容の紹介を行い、ミニ研修会を継続して実施している。



# 多様な学びの場を確保する取組

## （「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

### 支援会議（A中学校）

各学年の教員や、特別支援教室の教員に加えて、SC、SSW、養護教諭、巡回教員、管理職が参加する会議を週1回開催し、情報共有と対応策の検討を行っている。



### アウトリーチによる支援（D中学校）

担任を中心に、支援会議のメンバーが協力し、SCやSSWと連携しながら多くの支援を行っている。学習状況や生活状況をSSWと担任が連携して把握し、登校支援をしたり、校内別室の利用に向けた面談をSCと巡回教員が連携して行ったりしている。

### 校内別室における支援（A・B・C中学校）

各校の校内別室では、担任、学年教員、特別支援教室の教員と、支援員、SC、SSW、巡回教員が連携し、学習支援、相談、創作活動等、生徒の意思を尊重し、自己決定の場の提供を意識した運営を行っている。



### デジタル機器を活用した支援（市内各中学校）

生徒の多様な学びを保障するため、生徒同士の交流や学習が可能なVLPによる支援を活用している。各家庭の端末からの接続が可能で、SSWを中心にした研修会に教職員も参加している。申し込みは保護者が地区の教育委員会へ直接行っている。

### 関係機関との連携（D中学校）

校内委員会で集約した情報や生徒意識調査の結果を基に、生徒のニーズに合わせて、SCや管理職との面談したり、ケース会議を実施して対応を検討したりしている。

月別	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	入学式	運動会	文化祭	卒業式	入学式	運動会
授業	基礎学習	基礎学習	基礎学習	基礎学習	基礎学習	基礎学習
その他	読書会	読書会	読書会	読書会	読書会	読書会

## 成果

校内別室の運営や情報の共有、外部機関との連携等を踏まえた不登校対応の整備が進んだ。

## 課題

「人間関係」や「学習」に起因する不登校が多く、未然防止のための「魅力ある学校づくり」について充実を図る必要がある。